

八市企企第811号

令和7年3月7日

ダムを追い出し、清流を守る！節分集会
&パレード in 人吉実行委員会 御中

八代市長 中村 博生



『「ダムを追い出し 清流を守る！節分集会 in 人吉」宣言文の提出案内と公開質問』
への回答について

令和7年2月18日付で、貴実行委員会からご質問いただきました標記の件につきまして、別紙のとおり回答いたします。

質問①

宣言文、及び住民の訴えについて、どのように受け止められましたでしょうか。

<回答>

令和2年7月豪雨発生後、国、県、流域12市町村が連携し、豪雨災害に関する検証を行うため「令和2年7月球磨川豪雨検証委員会」が設置されました。

この検証委員会において科学的データに基づき検証が行われた結果、川辺川ダムがあれば、人吉市の浸水面積を約6割低減できていたとの報告がなされました。

これを受け、当時の蒲島知事は、流域全ての市町村を対象として、市町村長をはじめとする関係者や事業者、住民の方々などと直接会い、様々なご意見を聞かれました。そのうえで、住民の生命と財産、さらには清流を守るため、「新たな流水型ダム」を含む「命と環境の両方を守る緑の流域治水」を国に求めると決断されました。

本市といたしましては、市民の生命と財産を守るとともに、球磨川の自然と恵みを次の世代に引き継ぐため、国、県、流域市町村が一丸となって、流水型ダムを含む緑の流域治水を推進し、球磨川流域全体の安全・安心を実現していくことが必要であると考えております。

質問②

球磨川流域の暮らし・観光・経済を支える地域資源についてご回答ください。

<回答>

球磨川流域においては、古くから歴史・文化や自然景観、農林水畜産物、温泉など、有形・無形を問わず数多くの地域資源が形成されてきました。さらには、それらの豊かな地域資源を活かした食や技術、芸術、アクティビティなどを創造することで人々の暮らしが潤うとともに、観光資源として活用することで流域外からの人の流れが生まれるなど、住民の皆様にとって欠かすことのできない“流域資源”となっております。

この“流域資源”を守り、後世に伝えていくためには、それを支える人々が安全・安心に暮らすことができ、持続可能な地域を実現することが何よりも重要であります。そのためには、繰り返しになりますが、流水型ダムを含む緑の流域治水を推進する必要があると考えております。